

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972400331		
法人名	有限会社 エフヴェール		
事業所名	グループホーム エフヴェール		
所在地	高知県吾川郡いの町天王北4丁目8-7		
自己評価作成日	平成29年6月23日	評価結果 市町村受理日	平成29年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は民家改修型のアットホームなつくりで、ホールには利用者と職員で作った壁画、飾り物、習字、カレンダーなどを飾っていて、季節感のある物を毎月作るようにしている。植物が好きな人は庭のプランターに野菜、花を植え水やりなどして育て、作業の得意な人は、折り紙で壁画の材料を作ったりしている。それぞれに時間が掛かっても職員と一緒にするようにして、その人らしい支援を心がけている。食事には季節の野菜、果物などを使い、皆で皮はぎをしながら、懐かしい話をしてる。毎月1回は全員でお花見や外食に出掛けたりもして、利用者の思い、希望などを職員間で共有し、楽しく暮らしてもらえる工夫をしている。近所の施設の餅つき、コミュニティセンターでの体操、天王納涼祭など、地域の行事には積極的に参加している。また、相撲の巡業を見に行ったり、職員の家の畑に芋掘りにも行ったり、バザーをしたりと、利用者と職員が、共に楽しむという事を大切にしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_kihontrue&ji_gyosyoCd=3972400331-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成29年7月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅街にあり、民家を改修した2階建てである。近くには公園、美容院、診療所、スーパー、その他小売店等があり、利便性を有している。
 利用者は、週1回近くのコミュニティセンターに出かけ、健康体操や歌、レクリエーション等で地域の高齢者との交流が出来る。地域の防災訓練や、公園の清掃、夏祭り等にも参加している。ボランティアの受け入れも積極的にいき、保育園児との交流、演芸、作業療法士の運動指導等も取り入れている。
 利用者一人ひとりの思いや意向に沿う支援を心がけ、創作活動や、外出支援等に取り組んでいる。また、毎月発行する事業所の通信には、職員が一筆箋に利用者の近況を書いて同封し、家族に喜ばれている。
 理念に掲げている「その人らしさの維持向上と自立への支援」を目指して、利用者が楽しく、元気に、明るく生活できることを願い、また、出来ることは自分で行なう支援を実践している。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念があり、職員会で話し合い、地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えている。運営理念は見やすい所に掲示し、管理者、職員は運営理念を共有し、実践している。	利用者が職員とともに支えあって地域で普通の暮らしが出来ること、出来るだけ自立した生活が出来ることを理念の実践として取り組んでいる。目に入るところに理念を掲げ、定例の職員会では理念がケアに反映されているかを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は月3、4回地域のコミュニティセンターへ赴き、体操、歌、茶話会に参加している。地域のイベント参加したり、地域住民に事業所行事に来てもらったりして、地域との交流に努めている。地域住民の一員として町内会、自治会にも加入している。	町内会に加入し、地域との交流を積極的に行っている。コミュニティセンターでのレクリエーションには、週1回3～4人の利用者が交代で参加している。事業所ではバザーを行って地域との交流を行い、保育園児やボランティアとの交流の機会も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月1回、リハビリなどのボランティアに来てもらったり、利用者と共に公園の草引き、ゴミ拾いをする取り組みをしている。事業所でバザーを開き、地域の人と交流を持ち、散歩に出た時に近所の人と挨拶したりして、利用者との交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合い、意見をサービス向上に活かしている。新たに民生委員をメンバーに加え、情報も多くなり、家族からの相談、意見など些細な事でも対応して、ケアの向上に活かしている。	利用者もメンバーで、毎回多くの利用者が参加して発言している。事業所の活動報告を中心にして、意見交換を行なっている。事業所通信で職員が手書きの一筆箋を添えていることも紹介し、評価を得ている。メンバー構成は良いが、全員参加ができていない。	家族に時間や曜日などの参加要件を確認すること等で、もっと多くの委員の参加を期待する。併せて、議題を出したり、認知症に関する情報提供などの教育的機能を入れたりする等、会議内容の充実に期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	いの町福祉課に出向き、助言を得る機会を持っている。地域包括支援センターとは密に連絡を取り合い、利用者の受入れの際にも協力を得ている。町の研修にも参加して、サービスの向上に活かしている。困った時に相談できる関係ができています。	日常的に相談しやすい関係作りが出来ている。年2回は町が管理者を集めての情報交換の機会があり、研修等の案内があるので、受講している。地域包括支援センターとは、入所に関しての情報交換も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から代表者、全職員が身体拘束の内容、弊害を認識し、身体拘束の無いケアを実施している。玄関、自室ドアなどの施錠についても身体拘束である事を認識し、安全を確保しながら、自由な暮らしを支援するよう取り組んでいる。	外部研修は代表者が受講して内部研修で職員に伝達し、職員の意識改革につなげ、拘束のないケアを実践している。特に言葉による拘束がないように気をつけている。外出傾向のある利用者は常に見守り、事故のないように留意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止関連法について研修に行ったり、職員会で学ぶ機会を持つなどして、職員による虐待の徹底防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に必要性がないので、話し合い、支援はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書は契約の際に口頭説明し、利用者や家族の不安、疑問を尋ねたうえで十分な説明を行い、理解、納得の上で署名捺印をしてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族(面会時)に意見、要望を聞き、運営推進会出席者の意見等を前向きに捉え、サービスの質の向上に反映させている。言うことをためらっているのではと思われる利用者や家族には、特に心配りをして、意見、要望を出してもらえようようにしている。	家族の訪問時には必ず面談して要望を聞き、年2回は家族会を開催し、意見や要望は運営やケアに反映している。月1回は写真を入れた通信を発行し、一筆箋を添えて、利用者の近況報告をして家族から喜ばれている。利用者からは、日々の会話の中での把握に努め、要望に沿うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回、職員会を行い、職員の意見、提案を十分に聴き、全員で話し合って運営に反映させている。毎朝30分ほど連絡や情報交換を行うとともに、意見を出し合う時間を設けている。	2ヶ月に1回の職員会では、発言できる雰囲気作りが出来ている。日常の勤務の中でも、時にはコーヒータイムを設け、ケアや業務内容について気軽に話し合うことがある。上司、職員間とも、話しやすい関係作りが出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員が向上心を持てる職場を目指している。職員の努力や実績、勤務状態などを把握すると共に、職員処遇改善加算も導入して、職員処遇の改善に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立て2ヶ月に1回は所内研修を行い、外部研修情報を職員全員に提供して、研修を受ける機会の確保に努めている。また、研修報告書の提出を求め、職員会で発表してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主にグループホーム連絡協議会への参加や他の事業所との交流会に積極的に参加することで、サービスの質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が入所を納得した上で受け入れている。認知症により意思が確認し難い場合であっても、本人と向き合いながら本人の声に耳を傾け、本人の気持ちを受け止めることに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場になって家族等の話をしっかり聴き、受け止めながら関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に本人、家族から基本情報を聴き取り、本人、家族の経歴や要望を知り、その時点で何が必要か見極めて、出来る事は速やかに対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に掃除をしたり、洗濯物のたたみ、食事の下ごしらえなどをしたり、テレビと一緒に観たりして、共感し合える関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会、外出、外泊、通院などで、家族が可能な限り本人支援をしてもらうように働きかけている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>地域の行事などに積極的に参加し、利用者の知人に会って話ができるように支援をしている。家族に連絡があって電話する時には、後で必ず本人が電話で話せるようにしている。手紙、プレゼントが届いた時にも、電話で利用者がお礼が言えるようにしている。</p>	<p>入所期間の長い利用者が多く、自宅周辺とのつながりが薄くなる一方、事業所での新たな馴染みの関係が築かれている。利用者は、訪問美容師、訪問作業療法士、コミュニティセンター来所者との交流を楽しみにしている。電話等での家族とのつながりにも配慮している。</p>	<p>入所期間が長くなり、家族の足も遠のきがちな利用者がないよう、できるだけ訪問回数が増えるような家族への働きかけを期待する。</p>
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士で家事手伝いをし、テレビと一緒に観たり、レクリエーションなどを一諸に楽しんだり、散歩に行く時も手をつないだりしている。他の利用者が車椅子を職員と一諸に押してあげたりする事があり、見守りと支援に努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所入院では、管理者、職員はお見舞いに行き、相談があれば可能な限り応じるように努めている。また、退所後でも利用者が亡くなった連絡があると、葬儀に行く事もある。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>毎日の生活の中で職員全員が利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、職員全員で情報を共有して、本人本位の支援に取り組んでいる。特に入所時には、本人及び家族から丁寧に話を聴き、その意向に沿うようにしている。</p>	<p>利用者の要望、希望を聞き、利用者にあった支援に努めている。外出を好む人、静かに過ごしたい人、テレビの好きな人、歌の好きな人など、個性を大切にしながらも、全員で習字に取り組み、月1回発行の事業所通信で、その月に合った文字を書いて、家族に披露している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>職員と管理者は、利用者のプライバシーに配慮して家族等と馴染みの関係を築きながら、把握事項を毎日のサービスに活かすことに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートや引継ぎで利用者本人の一日の流れを把握して、本人の持っている強み弱みを発見する事に努め、本人に適した介護支援を全職員で対応するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を確認し、主治医、看護師、職員の意見も含めて、自立支援を主体としたアセスメント、モニタリングを繰り返し、日々新たな気持ちで介護計画を作成している。	利用者毎に担当者を決めモニタリングを毎月行って、全員でカンファレンスをしている。介護計画への家族、利用者本人の希望は聞いているが、カンファレンスには参加していない。更新された介護計画は、家族、本人に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員には、業務中の出来事やケアの気づきを正直に記録させている。職員間で情報共有をしながら、より良いケアが出来るように日々記録を確認し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ショートステイ、デイサービスの多機能性の認可はなし。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア、体操、歌、茶話会に利用者が継続して参加をし、防災訓練など、地域の力を借りて安心できる暮らしを楽しむことができるように支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時を除いて本人、家族の希望の掛かりつけ医に受診したり、地域の歯科、天王診療所の医師の往診を受けるなどの支援をしている。緊急時は家族、本人の希望をする医療機関を確認し、受診している。	内科疾患は、協力医療機関である近くの診療所の月2回の往診で健康管理を行っている。眼科耳鼻科等は、希望する病院を家族、又は職員同伴で受診している。受診結果は家族に伝え、受診記録に記載して、職員間での情報共有をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、日常の健康管理、受診などの医療支援について、24時間いつでも連絡が取れる医療連携体制ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した利用者への支援も含め、家族と共に主治医、病院の相談員、看護師との連携を密にして、早期退院が出来るように支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日ごろから本人、家族に重度化した場合の基本的な対処についての意向を確かめるようにしている。その時が来た際には、職員全体で話し合い、家族、医療関係者との連携を図りながら支援をしている。	看取りに関する指針を作成しており、入所時に説明しているが、看取りを行った利用者はおらず、医療機関に入院しての退所となっている。重度化した場合には、利用者、家族の希望を優先しての支援を考えている。看護師を中心に、看取りに関する研修は実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時に備えて、全職員で応急手当、初期対応の訓練、話し合いを定期的に行い、研修などの機会がある時は参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震、水害や防火の訓練は年2回実施し、災害時の対応を話し合っている。訓練時には、近隣住民に協力を依頼し、参加を得ている。飲料水、食料、トイレ、防火頭巾や名札の対策は済ませ、3ヶ月毎に備蓄点検表で確認している。	防災訓練は年2回で、1回は消防署の指導、1回は自主訓練とし、近隣住民の参加を得ている。夜間想定で、2階の利用者を早く救出する訓練に力を入れている。年1回の地域防災訓練の参加し、地域との協力体制を築いている。3日以上分の食料等の備蓄がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊敬と権利を守るのは基本であり、全職員で常に確認、対応している。本人の人格を傷つけないように気配り、目配りをして対応するように努めている。	利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの保護の大切さについては職員も認識しており、特にトイレ誘導時、入浴時のケアについては配慮している。自分で出来ることは行ってもらい、出来ないところを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をなるべく尊重しながら働きかけをしているが、安全面や業務の都合上本人の思いに添えないことがある。その時には、出来るだけ丁寧に説明して、納得してもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴などは別として、日々の過ごし方は原則として本人の望むようにしている。本人と家族の思いが違う場合があるが、本人と何度でも話し合い、支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わない服を着たりするのを見ると、適切に誘導している。美容院は、家族が連れて行ったり、事業所へ来る美容室を利用したりと、本人、家族の希望に添うように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力や本人の関心度の違いから食事準備・片づけの参加者は限られているが、一応は全員に声掛けをするようにしている。昼食は利用者、職員が同じ物を食べ、食べ物の話題で話しがはずむ時もある。	献立、食材の購入、調理まで事業所で行っている。利用者は献立の希望を出し、特に要望の多い魚の刺身が食卓に上がることが多い。利用者も出来る範囲で食事作りに参加し、職員も一緒に献立内容を話題にしなが、楽しく食事が出来ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー不足、栄養の偏り、水分不足が起こらないようチェック表で確認している。不足時には本人の好みの物や時間をずらして摂取してもらったりして、看護師が立てた目標を達成できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前には職員の声掛けや見守りで口腔ケアを実施している。毎晩、歯磨きの仕上げには口腔洗浄液を使用している。また、月1回歯科医の往診を受け、口腔ケアを受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗もあるがすぐにオムツにつなげず、オムツ使用の利用者も、個々の排泄のパターン、習慣を確認してトイレ誘導をしたり、ポータブル誘導などを行っている。トイレ、ポータブルでの排泄の自立ができるよう、支援をしている。	トイレでの排泄を基本としており、排泄パターンを把握してトイレ誘導を行い、失敗のないように自立支援に取り組んでいる。昼間は布パンツのみの利用者が、7名いる。トイレは分かりやすく表示している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は、便秘の原因や便秘が及ぼす影響を理解し、運動、食事の工夫をしたり、水分摂取を勧めたりしている。便秘がちな利用者には、牛乳に青汁を混ぜたりして自然に便が出るようにしており、以前のように下剤を使うことがなくなった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則として毎日の入浴が可能。利用者無理強いせず、本人の意向で入浴するように支援している。	希望者は毎日でも入浴できるようにしているが、利用者の多くは週3回の入浴になっている。今は入浴を拒否する利用者もなく、準備から入浴まで自分で出来ることはしてもらい、1人で出来ない部分を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は原則自由だが、昼夜逆転傾向のある利用者には、ある程度誘導をして、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に管理すると共に、受診記録や申し送りノートで薬の目的、用法、用量、副作用などを理解し、飲み忘れや誤薬がないよう、職員2名で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体的に難しい利用者もいるが、可能な限りしたい事をしてもらい、生活意欲が増進するように気配りをしている。洗濯干し、洗濯たたみ、食事の下ごしらえや準備、貼り絵など、本人の関心や能力に応じて支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の周辺環境は良く、公園も近くにあり散歩に出かける機会が多い。また、毎月利用者の意見を聴き、車を使っての花見や、外食をするなどの支援をしている。	近くに公園があり、毎日のように散歩に出かけている。木曜日はコミュニティセンターの交流会に利用者3、4人が交代で参加している。月1回は利用者の希望のレストランへ外食に出かけ、季節季節には、家族の協力を得て花見に出かけている。また、希望者には、買物などの外出支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所でお金は預かっているが、近所のスーパーへの買物では、自分で支払うことを支援をしている。月末には、領収書と小使いノートのコピーを家族に郵送している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に出来るようにしているほか、家族から電話があった時も利用者と変わり、家族と話しをしてもらうようにしている。手紙を書く利用者は現在いないが、これから書きたいという人がいれば、支援をする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には生活感、季節感が感じられるように、利用者と職員で作った壁画などを飾り、リラックス出来る雰囲気作りの工夫をしている。事業所の庭には季節の野菜、花を植え、利用者が水やり、収穫をして、職員と利用者で楽しんでいる。	民家を改修した事業所で、食堂兼居間はやや狭いが、家庭的な雰囲気と親密感を感じることができる。居間は習字や創作活動などにも使用され、作品を展示している。夜も9時半ごろまで談笑したり、テレビを観たりして過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	手狭であるが出来るだけ配慮している。利用者はテレビの前に置いてあるソファで話したり、他の利用者の部屋を訪ねて楽しく雑談したりしている。一人自室でテレビを観たりして過ごす事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の能力と家族の事情に応じて可能な限り使い慣れた物を持って来てもらい、自分自身の部屋として落ち着けるよう工夫をしている。利用者の担当職員が服の入れ替えや危険な物がないかなどを利用者と確認して、安心して過ごせる工夫をしている。	自宅で使用していた好みの品等の持参を勧めている。部屋には家族の写真、自作の作品、手作りカレンダー、テレビ、洋服掛け、鏡などの配置で各々の個性が感じられ、担当職員の支援を得ながら、居心地のよい落ち着いた生活が出来ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の確認のため、トイレ、風呂と書いた紙をドアに貼り、自室の入口にも本人の名前を書いた物を張っている。施設内は、自由かつ安全に移動できるよう、工夫をしている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				